



平成29年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年7月29日

上場取引所 東

上場会社名 理研ビタミン株式会社

コード番号 4526 URL <http://www.rikenvitamin.jp/>

代表者 (役職名) 取締役社長

(氏名) 山木 一彦

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経営企画部長

(氏名) 藤田 満

TEL 03-5275-5111

四半期報告書提出予定日 平成28年8月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無 (証券アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第1四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第1四半期	21,206	1.4	1,872	27.5	1,823	20.9	1,320	32.7
28年3月期第1四半期	20,913	4.3	1,467	30.6	1,508	28.5	994	19.4

(注) 包括利益 29年3月期第1四半期 △874百万円 (△163.6%) 28年3月期第1四半期 1,374百万円 (56.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第1四半期	75.05	—
28年3月期第1四半期	44.99	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第1四半期	107,088	48,342	44.7
28年3月期	109,094	74,406	67.7

(参考) 自己資本 29年3月期第1四半期 47,818百万円 28年3月期 73,829百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	31.00	—	35.00	66.00
29年3月期	—	—	—	—	—
29年3月期(予想)	—	33.00	—	33.00	66.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
第2四半期(累計)	43,500	1.0	3,100	6.0	3,000	0.3	2,000	121.27
通期	90,000	2.2	6,400	6.1	6,100	14.2	4,200	263.46

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

29年3月期1Q	23,652,550 株	28年3月期	23,652,550 株
29年3月期1Q	8,260,988 株	28年3月期	1,661,007 株
29年3月期1Q	17,591,565 株	28年3月期1Q	22,111,914 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業業績・雇用環境が引き続き堅調であったものの、個人消費については依然として弱含みで推移する等、不透明感を払拭できない状況が続きました。一方、海外経済は、米国において拡大基調が継続しているのに加え、欧州経済についても独仏を中心に個人消費の改善が下支えする形で、景気は底堅く推移しました。但し、新興国経済の減速や英国のEU離脱問題等、先行きは予断を許さない状況が続いております。

食品業界においては、フードディフェンスを含めた食の安全・安心へのしっかりとした取り組みはもとより、少子・高齢化が進行する国内市場での競争激化の中で、成長が見込めるエリアを見極めたグローバル展開に繋がる戦略構築が強く求められる状況にあります。

このような事業環境のもと、当社グループでは、昨年4月より平成30年3月までの3年間を対象として、
 ◇成熟市場として認識する「国内マーケット」における「収益基盤の確立」
 ◇成長市場として認識する「海外マーケット」における「構造基盤の強化」
 (グローバルカンパニーとしての揺るぎない体制構築に繋がる成長戦略策の推進)
 を基本に据えた「中期経営計画」への取り組みを推進しました。

当第1四半期の業績につきましては、『海外事業』が為替影響を受ける結果となったものの、『国内食品事業』および『国内化成品その他事業』がそれぞれ前年同期を上回る実績を確保し、売上高は212億6百万円(前年同期比2億92百万円、1.4%増)となりました。

利益面でも、売上高の伸長に加え、効率的な生産および販売管理オペレーションも奏功し、営業利益は18億72百万円(前年同期比4億4百万円、27.5%増)、経常利益は18億23百万円(前年同期比3億14百万円、20.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は13億20百万円(前年同期比3億25百万円、32.7%増)となりました。

セグメントごとの業績は、次のとおりであります。

〔国内食品事業〕

『家庭用食品』では、食塩・化学調味料無添加の「素材力だし」が堅調な推移を示し前年同期を上回る実績を確保しました。市販ドレッシングでは、ノンオイル品は伸びを欠く状況にあったものの、サラダデュオ®シリーズはご好評をいただき、CM等の販売促進策効果もあり実績確保に貢献しました。

海藻商品につきましては、『家庭用食品』では、「わかめスープ」が伸びを欠く状況にありましたが、メニュー訴求等を行った「ふえるわかめちゃん®」および『業務用食品』の乾燥わかめ・冷凍海藻等の着実な伸長もあり、売上は前年同期を上回りました。

『加工食品用原料等』では、ビタミンC等一部の分野で売上が前年同期を下回ったものの、ユーザーニーズに的確に応えたソリューションビジネスの展開により、食品用改良剤分野での売上が堅調な実績推移を示したことに加え、医薬用マイクロカプセルやビタミンE等の売上也着実な伸長を示し、部門全体の売上では前年同期を上回る結果となりました。

この結果、当セグメントの売上高は、前年同期から5億97万円(4.2%)増加した146億49百万円となり、営業利益は16億73百万円(前年同期比4億68百万円増)となりました。

〔国内化成品その他事業〕

プラスチック・農業用フィルム・食品用包材・ゴム製品・化粧品などの工業用分野に、加工性向上および帯電防止・防曇等の機能性を付加する『化成品(改良剤)』では、一部関係先業界の業況が影響したものの、部門全体の売上は前年同期を上回る結果となりました。

また、『その他』の事業では、飼料用油脂の売上が前年同期を下回りました。

この結果、当セグメントの売上高は、前年同期から51百万円(3.7%)増加した14億40百万円となり、営業利益については1億43百万円(前年同期比46百万円増)となりました。

〔海外事業〕

改良剤分野において、情報発信基地としての役割を担う「アプリケーションセンター」の機能を活かす中で、アジア・欧米をはじめとする各エリアの既存市場での深耕はもとより、成長が見込める新市場の開拓・販売拡大に取り組む活動を推進した『改良剤』分野においては、ソリューションビジネスの着実な展開により実績拡大に向けた対応を推進しました。

同様に、水産加工品が高いウエイトを占める青島福生食品有限公司（中国）においても、実績化に向けた取り組みを推進しました。

しかし、為替影響を大きく受ける結果となり、当セグメントの売上高は、前年同期から3億98百万円（6.9%）減少した53億71百万円となり、営業利益は1億20百万円（前年同期比1億68百万円減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は1,070億88百万円となり、前連結会計年度末に比べ20億5百万円減少しました。主な増加は、たな卸資産18億19百万円であり、主な減少は、投資有価証券11億13百万円であります。

負債は587億46百万円となり、前連結会計年度末に比べ240億58百万円増加しました。主な増加は、自己株式の取得に係る資金調達を含む短期借入金257億43百万円であります。

純資産は483億42百万円となり、前連結会計年度末に比べ260億63百万円減少しました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により13億20百万円増加したものの、配当金の支払により7億69百万円、自己株式取得により244億19百万円減少したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年4月27日発表の第2四半期累計期間及び通期の業績予想は修正しておりません。今後の事業環境の変化を見極めた上で、見直しの必要が生じた場合には、速やかに開示いたします。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,270	13,838
受取手形及び売掛金	21,814	20,920
電子記録債権	498	446
商品及び製品	7,035	7,337
仕掛品	2,948	3,265
原材料及び貯蔵品	7,389	8,590
その他	3,697	3,655
貸倒引当金	△190	△169
流動資産合計	57,464	57,883
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	13,107	12,659
機械装置及び運搬具(純額)	14,084	13,017
その他(純額)	3,706	3,811
有形固定資産合計	30,899	29,488
無形固定資産	901	870
投資その他の資産		
投資有価証券	18,692	17,578
退職給付に係る資産	—	114
その他	1,150	1,165
貸倒引当金	△12	△12
投資その他の資産合計	19,829	18,846
固定資産合計	51,630	49,205
資産合計	109,094	107,088

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,387	8,368
電子記録債務	303	310
短期借入金	11,642	37,386
未払法人税等	1,078	505
引当金	965	300
その他	6,169	6,178
流動負債合計	28,546	53,048
固定負債		
長期借入金	435	350
退職給付に係る負債	196	184
その他	5,509	5,162
固定負債合計	6,141	5,697
負債合計	34,688	58,746
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,537	2,537
資本剰余金	2,466	2,466
利益剰余金	62,169	62,720
自己株式	△4,219	△28,639
株主資本合計	62,954	39,085
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,989	8,214
繰延ヘッジ損益	7	△22
為替換算調整勘定	1,900	572
退職給付に係る調整累計額	△20	△31
その他の包括利益累計額合計	10,875	8,733
非支配株主持分	576	523
純資産合計	74,406	48,342
負債純資産合計	109,094	107,088

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
売上高	20,913	21,206
売上原価	14,469	14,303
売上総利益	6,444	6,902
販売費及び一般管理費	4,976	5,030
営業利益	1,467	1,872
営業外収益		
受取利息	9	8
受取配当金	197	214
その他	47	40
営業外収益合計	254	264
営業外費用		
支払利息	162	156
為替差損	41	36
自己株式取得費用	—	73
その他	9	45
営業外費用合計	213	312
経常利益	1,508	1,823
特別利益		
補助金収入	15	1
その他	3	0
特別利益合計	18	1
特別損失		
固定資産売却損	8	7
固定資産除却損	15	19
固定資産圧縮損	11	—
減損損失	28	—
特別損失合計	63	27
税金等調整前四半期純利益	1,464	1,798
法人税等	469	470
四半期純利益	995	1,327
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	7
親会社株主に帰属する四半期純利益	994	1,320

(四半期連結包括利益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
四半期純利益	995	1,327
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	284	△774
繰延ヘッジ損益	50	△31
為替換算調整勘定	89	△1,384
退職給付に係る調整額	△45	△10
その他の包括利益合計	378	△2,201
四半期包括利益	1,374	△874
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,368	△821
非支配株主に係る四半期包括利益	5	△53

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成28年4月27日開催の取締役会決議に基づき、自己株式6,600,000株の取得を行いました。この結果、当第1四半期連結累計期間において自己株式が244億19百万円増加し、当第1四半期連結会計期間末において自己株式が286億39百万円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	国内 食品事業	国内化成品 その他事業	海外事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	14,030	1,389	5,493	20,913	—	20,913
セグメント間の内部売上高 又は振替高	21	—	275	297	△297	—
計	14,052	1,389	5,769	21,211	△297	20,913
セグメント利益	1,204	97	289	1,590	△122	1,467

(注) 1. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△80百万円、たな卸資産の調整額△42百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

報告セグメントに係る該当事項はありません。なお、当第1四半期連結累計期間において、四半期連結損益計算書の特別損失に計上しております減損損失28百万円は、いずれの報告セグメントにも配分されていない遊休資産の地価下落によるものです。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	国内 食品事業	国内化成品 その他事業	海外事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	14,614	1,440	5,151	21,206	—	21,206
セグメント間の内部売上高 又は振替高	34	—	219	254	△254	—
計	14,649	1,440	5,371	21,460	△254	21,206
セグメント利益	1,673	143	120	1,937	△65	1,872

(注) 1. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△95百万円、たな卸資産の調整額29百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。